

2011. 7. 8
紫八 (D-2)

自立

～社会で求められる人材輩出のために～

目次

- 1) 高等教育をめぐる情勢
- 2) 大学の使命
- 3) これからの社会で求められる人材とは
- 4) 現状把握と自立への導き
- 5) 教職協働によるカリキュラム編成

1) 高等教育をめぐる情勢

- 🌐 東日本大震災 → 復興支援ニーズ
- 🌐 少子高齢化 → 人口減少社会
- 🌐 大学の二極化 → 勝ち組、負け組
- 🌐 就職氷河期再来 → 求人数の低下

* 世界の中で見てみると…。

グローバル化、苛烈な競争、世界的金融危機



ピンチをチャンスに!!!

2) 大学の使命

主要3分野：教育、研究、社会貢献

「教育」により、社会に求められる人材を輩出し、
「研究」により、高度な知識を蓄積し、
「社会貢献」する！

3) これからの社会で 求められる人材とは？

* 社会人基礎力を兼ね備えた人材

特に、



前に踏み出す力（アクション）

主体性、働きかけ力、実行力

- 🌐 自分で考えて行動する。
- 🌐 自分で目標を設定できる。

自立

4) 現状把握 と自立への導き

* 最近の学生は・・・

- 🌐 何事にも（科目選択などなど）が受け身 ←モチベーションが低い
→解決への道筋を示し、達成した時にちゃんと褒めて自信を与える。
- 🌐 自分で調べない ←課題解決能力に問題
→すぐに答えを教えるのではなく、自分で考えるように促す。
- 🌐 窓口で何を聞いていいのかわからない ←質問力、コミュニケーション能力の低下
→職員から積極的にコミュニケーションを取り、その大切さを伝える。
- 🌐 保護者への依存 ←過保護、子離れ親離れできない
→保護者に対して、理解を求める。

4) 現状把握 と自立への導き

* 我々、教職員は??

🌐 職員も安易にサービスを提供 ←サービス過多

→学生は顧客ではなく、学び手。

「与えることは自ら考える機会を奪うこと」

🌐 業務の硬直化（前例主義、マニュアル主義） ←思考停止

→絶えず、アンテナを張り巡らす。

🌐 教員本意のカリキュラム ←学生不在、不参加

→※教員の牙城に職員が物申す！！（次のスライドへ）

5) 教職協働によるカリキュラム編成

🌐 足りないものは？学生、教職員より意見を拾い上げるシステムが必要では？

→教員だけではなく、職員や学生も大学作りに積極的に参加する。

🌐 既存のカリキュラムについてよく知り、エビデンスを示して教員と議論する必要あり。

→カリキュラムに、PDCAのC（検証）A（行動）の導入を！好き勝手なP（計画）D（実行）止まりは許しません！